

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|------------|-------|------------|--|-------------|-------|---------------------|----------------------|----|----|--------|---------|----|----|
| 1 | 2006/09/01 | 60383 | 川崎三鷹製薬 | 胎盤性性腺刺激ホルモン | 胎盤性性腺刺激ホルモン | ヒト尿 | 中国 | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 2 | 2006/09/01 | 60384 | 化学及血清療法研究所 | 乾燥細胞培養痘そうワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン | 初代腎臓培養細胞 | ウサギ腎臓 | 日本 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 3 | 2006/09/01 | 60385 | 化学及血清療法研究所 | 乾燥細胞培養痘そうワクチン 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン | ラクトアルブミン | ウシ乳 | 米国、ニュージーランド、オーストラリア | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 4 | 2006/09/01 | 60386 | 化学及血清療法研究所 | 乾燥細胞培養痘そうワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン | 血清 | ウシ血液 | 米国、ニュージーランド、オーストラリア | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 5 | 2006/09/01 | 60387 | 化学及血清療法研究所 | ①乾燥細胞培養痘そうワクチン ②乾燥弱毒生風しんワクチン ③乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン ④組織培養不活化狂犬病ワクチン | 筋アデニル酸 | ウマ肉 | 米国 | ①～③製造工程・添加物 ④製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 6 | 2006/09/01 | 60388 | 化学及血清療法研究所 | ①乾燥細胞培養痘そうワクチン ②沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ③沈降破傷風トキソイド ④ジフテリア破傷風混合トキソイド ⑤ジフテリアトキソイド ⑥コレラワクチン ⑦乾燥ジフテリアウマ抗毒素 ⑧乾燥ボツリヌスウマ抗毒素 ⑨沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ⑩破傷風トキソイド | ペプトン | ブタ胃 | 米国、日本 | ①添加物 ②～⑩製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|------------|-------|------------|--|----------------|----------|---------------------------------|----------------------|----|----|--------|---------|----|----|
| 7 | 2006/09/01 | 60389 | 化学及血清療法研究所 | ①乾燥細胞培養痘そうワクチン ②乾燥弱毒生風しんワクチン ③乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン ④組織培養不活化狂犬病ワクチン | コレステロール | ヒツジ毛 | ニュージーランド、オーストラリア | ①～③製造工程・添加物 ④製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 8 | 2006/09/01 | 60391 | 化学及血清療法研究所 | 乾燥細胞培養痘そうワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン | ラクチオン酸エリスロマイシン | ウシ乳 | 米国、カナダ、ニュージーランド | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 9 | 2006/09/04 | 60392 | 阪大微生物病研究会 | 破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド 沈降破傷風トキソイド | ウシ肉エキス | ウシ肉、骨、脂肪 | 日本、ブラジル、インド、米国、オーストラリア、ニュージーランド | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 10 | 2006/09/04 | 60393 | 阪大微生物病研究会 | 破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド コレラワクチン 沈降破傷風トキソイド | スキムミルク | ウシ乳 | 米国、オーストラリア、ニュージーランド | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 11 | 2006/09/04 | 60394 | 阪大微生物病研究会 | 百日せきワクチン 破傷風トキソイド 沈降精製百日せきワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド | ポリペプトン | ウシ乳 | ニュージーランド | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|------------|-------|-----------|--|---------|------|------------------|------|----|----|--------|----------|---------------------------------|--|
| 12 | 2006/09/04 | 60395 | 阪大微生物病研究会 | インフルエンザワクチン インフルエンザHAワクチン | 尿膜腔液 | 発育鶏卵 | 日本 | 製造工程 | 有 | 無 | 無 | 鳥インフルエンザ | J Gen Virol 2006; 87: 1823-1833 | 中国 Qinghai湖で2005年5月から7月に高病原性H5N1トリインフルエンザウイルスのアウトブレイクにより、何千もの野生の渡り水鳥が死亡した。この時に収集されたガチョウから単離したH5N1インフルエンザウイルス(Bh H5N1ウイルス)を分析した。遺伝子分析の結果、Bh H5N1ウイルスは再配列ウイルスで、PB2遺伝子の627位のアミノ酸残基(リジン)は、ヒトH5N1ウイルス(A/HK/483/97)と同じであり、GenBankにあるH5N1トリインフルエンザウイルスとは異なっていた。 |
| 13 | 2006/09/04 | 60396 | 阪大微生物病研究会 | 発疹チフスワクチン | 卵黄囊 | 発育鶏卵 | 日本 | 製造工程 | 有 | 無 | 無 | 鳥インフルエンザ | J Gen Virol 2006; 87: 1823-1833 | 60395に同じ |
| 14 | 2006/09/04 | 60398 | 武田薬品工業 | 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド コレラワクチン ジフテリアトキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素 | ウシ肉水 | ウシ肉 | オーストラリア | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 15 | 2006/09/04 | 60399 | 武田薬品工業 | 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 沈降精製百日せきワクチン ジフテリアトキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素 | カザミノアシド | ウシ乳 | ニュージーランド、オーストラリア | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|------------|-------|--------|---|-------------|-------|------------------|------|----|----|--------|---------|----|----|
| 16 | 2006/09/04 | 60400 | 武田薬品工業 | 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥痘そうワクチン 沈降精製百日せきワクチン コレラワクチン ジフテリアトキソイド ワイル病秋やみ混合ワクチン ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 | ポリペプトン | ウシの乳 | ニュージーランド、中国 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 17 | 2006/09/04 | 60401 | 武田薬品工業 | 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン 弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン | ラクトアルブミン水解物 | ウシの乳 | ニュージーランド、オーストラリア | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 18 | 2006/09/04 | 60402 | 武田薬品工業 | 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥破傷風ウマ抗毒素 | ウシ心臓透析外液 | ウシ心臓 | オーストラリア | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 19 | 2006/09/04 | 60403 | 武田薬品工業 | インフルエンザHAワクチン | 発育鶏卵 | 発育鶏卵 | 日本 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 20 | 2006/09/04 | 60404 | 武田薬品工業 | 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン | ニワトリ胚細胞 | ニワトリ胚 | 日本 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 21 | 2006/09/04 | 60405 | 武田薬品工業 | 乾燥まむしウマ抗毒素 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素 | ペプシン | ブタ胃 | アメリカ合衆国 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|------------|-------|--------|--|---------|------|---|------|----|----|--------|---------|----|----|
| 22 | 2006/09/04 | 60406 | 武田薬品工業 | 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン | トリプシン | ブタ睪臓 | アメリカ合衆国、カナダ | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 23 | 2006/09/04 | 60407 | 武田薬品工業 | 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥破傷風ウマ抗毒素 | バクトカジン | ウシの乳 | ニュージーランド、アメリカ合衆国、オーストラリア | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 24 | 2006/09/04 | 60408 | 武田薬品工業 | ①乾燥弱毒生麻しんワクチン ②乾燥弱毒生風しんワクチン ③乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン ④日本脳炎ワクチン ⑤乾燥日本脳炎ワクチン ⑥乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン | ウシ血清 | ウシ血液 | ①～③アメリカ合衆国、ニュージーランド、オーストラリア ④、⑤ニュージーランド ⑥ニュージーランド、オーストラリア | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 25 | 2006/09/04 | 60409 | 武田薬品工業 | 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 沈降精製百日せきワクチン ジフテリアトキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素 | スキムミルク | ウシの乳 | アメリカ合衆国、日本 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 26 | 2006/09/04 | 60410 | 武田薬品工業 | 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥破傷風ウマ抗毒素 | ウシ肝臓 | ウシ肝臓 | オーストラリア | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|------------|-------|-----------|---|----------------|-------|------------------------|------|----|----|--------|---------|----|----|
| 27 | 2006/09/04 | 60411 | 武田薬品工業 | 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 | ウマ血清 | ウマ血液 | ニュージーランド | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 28 | 2006/09/04 | 60412 | 武田薬品工業 | 痘そうワクチン 乾燥痘そうワクチン | ウシ皮膚 | ウシ皮膚 | 日本 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 29 | 2006/09/04 | 60413 | 武田薬品工業 | 乾燥弱毒生風しんワクチン | 筋アデニール酸 | ウマ筋肉 | アメリカ合衆国 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 30 | 2006/09/04 | 60414 | 武田薬品工業 | ウイルス病秋やみ混合ワクチン | ウサギ血清 | ウサギ血液 | 日本 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 31 | 2006/09/04 | 60415 | 武田薬品工業 | 乾燥まむしウマ抗毒素 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素 | ウマ免疫グロブリン | ウマ血清 | 日本 | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 32 | 2006/09/04 | 60416 | 阪大微生物病研究会 | 破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド | ウシの肝臓 | ウシの肝臓 | 日本、米国、オーストラリア、ニュージーランド | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 33 | 2006/09/04 | 60417 | 阪大微生物病研究会 | 破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド | ビーフハートインフュージョン | ウシの心臓 | インド、オーストラリア、ニュージーランド | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|------------|-------|------------|-------------|-------------|--------|---------|------|----|----|--------|---------|--|--|
| 34 | 2006/09/07 | 60419 | あすか製薬 | 日局カリジノゲナーゼ | カリジノゲナーゼ | ブタ臓臓 | 中国 | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | レンサ球菌感染 | Emerg Infect Dis 2006; 12: 914-920 | 2005年7月中旬から8月末の間に中国四川省で215例のヒト連鎖球菌感染が報告され、うち66例は確定例であった。全ての感染例は、原因不明で死んだブタや病気ののために食用になったブタを屠殺する過程で暴露した農業従事者で発生した。61例(28%)が連鎖球菌毒素ショック症候群を呈し、うち38例(62%)が死亡した。その他、敗血症(24%)と髄膜炎(48%)または両者であった。単離された全ての菌は tuf、種特異的16S rRNA、cps2J、mrp、ef、およびslyに対する遺伝子に陽性で、単一の株であった。 |
| 35 | 2006/09/07 | 60420 | 伊藤ライブサイエンス | ダルテバリンナトリウム | ダルテバリンナトリウム | ブタ小腸粘膜 | 中華人民共和国 | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | レンサ球菌感染 | ProMED20060412-0060 Boston.com 2006年4月11日 PLoS Med 3(5): e218 2006年4月11日 | 科学者らは、4月10日、ブタからヒトに伝播する危険な感染症が異例の致死経過をとって、2005年中国で38名の死者を出したと報告した。ブタ連鎖球菌(Streptococcus suis)で2005年7月と8月に死亡した者のうち1名を除いて全員が、連鎖球菌トキシックショック症候群により死亡した。この重症の免疫反応は、これまで一度もブタ連鎖球菌感染では認められていなかった。トキシックショック症候群と診断され、ブタとの接触があった患者は全てブタ連鎖球菌感染を調べた方がよい。 |
| | | | | | | | | | | | | 炭疽 | OIE Disease Information 19(19) 2006年5月11日、19(20) 2006年5月18日、19(28) 2006年7月13日 | 2006年4月10日、レットで炭疽が発生した。5月17日までにウシ51頭、ヒツジ70頭、ウマ39頭が死亡した。死んだ動物の肉を食べた30人が感染し、うち5人が死亡した。 |
| | | | | | | | | | | | | 炭疽 | ProMED-mail20060730.2107 ProMED-mail20060802.2141 ProMED-mail20060806.2195 ProMED-mail20060808.2228 ProMED-mail20060811.2257 | カナダ Saskatchewanで2006年7月初めに始まった炭疽のアウトブレイクで、隣のManitobaを含め、少なくとも746頭の家畜が死亡し、146農場が隔離されている。1950年代以降最大のアウトブレイクである。カナダの公衆衛生局は炭疽がヒトに感染する危険性は極めて低いと強調している。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|------------|-------|------------|----------|---------|------|-----------------------|------|----|----|--------|-----------------|--|--|
| 36 | 2006/09/07 | 60421 | 日本ビーシージー製造 | 精製ツベルクリン | 乳糖 | ウシの乳 | オランダ、ベルギー、ドイツ、ルクセンブルグ | 添加物 | 有 | 無 | 無 | 異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | J Gen Virol 2006; 87: 251-254 | 脳内接種により、げっ歯類に適合したBSEまたはvCJDに感染させたハムスターとマウスの骨格筋から、病原体プリオンが検出された。陽性の筋肉検体中のPrPTSE濃度は、脳検体中濃度の500から1000倍低かった。骨格筋のTSE関与のリスクをさらに評価する必要がある。 |
| | | | | | | | | | | | | 異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | New Zealand J Agricult Res 2005; 48: 499-515 | BSE、スクレイビーおよび慢性消耗病はニュージーランドには存在しないが、サーベイランスは、死後検体をイムノブロット法で検査することにより行われている。最近開発されたイムノブロット法(GDI)はTSEの株や亜型を区別でき、血液検体中での検出も可能かもしれない。増幅法(PCMA)は最小量を検出できる。 |
| | | | | | | | | | | | | 異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Dev Biol (Basel) 2006; 123: 335-345 | 大部分のワクチンまたはワクチン製造工程でウシ組織由来物質が使われている。ワクチン製造に使われる最初の組織を、固有のTSEリスクに基づいて選択することがまず重要であり、安全な起源の第一評価として地理的因子を用いるより安全性が高い。組織が適切に集められ、加工され、詳細な記録が保管されることは必須である。 |
| | | | | | | | | | | | | 人畜共通感染症 | Dev Biol (Basel) 2006; 123: 273-280 | ワクチン製造、ウイルス診断試験または原料試験に使われる細胞培養に添加する動物起源物質の使用は、ワクチンを汚染し、接種した動物で血清転換や疾患を引き起こし、検体の誤診断や間違った試験結果の原因となるおそれがある。血清や細胞培養をモニターするために獣医学生物センターで用いられている方法を紹介した。培地や添加物としてウシやブタなどの動物起源原料を使用する際には、ヒトへの交差の可能性も考慮し、検査、血清フリー培地、起源の確認、ウイルス不活性化、検査方法の改良が必要である。 |
| | | | | | | | | | | | | 異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | J Gen Virol 2006; 87: 1043-1046 | BSEに感受性のあるPRNP遺伝子型ヒツジにBSE物質を経口摂取させると、宿主の体内にプリオンが広く分布した。ARRホモ接合体ヒツジはTSEに耐性があると考えられているため、ヒツジの群れからスクレイビーを根絶し、小反芻動物BSEリスクからヒト食物連鎖を守るために選択されてきた。しかし、ARR/ARRヒツジで同様の実験を行ったところ、経口摂取の数カ月後には健康なARR/ARRヒツジの脾臓に有意な量のPrPScが蓄積されることが明らかとなった。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|------------|-------|------------|----------|---------|--------|-----|------|----|----|--------|-----------------|---|--|
| | | | | | | | | | | | | 異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Biochem Biophys Res Commun 2006; 342: 293-299 | PrP遺伝子のコドン129での多型とBSEまたはvCJDプリオンに対する感受性との関係を調べるため、ヒト化ノックインマウスにプリオン蛋白を腹腔内接種し、脾臓濾胞樹状細胞への蓄積を調べた。ヒト化ノックインマウスはBSEプリオンにはほとんど又は全く感受性を示さなかった。驚いたことに、コドン129Met/Metを持つヒト化ノックインマウスだけでなく、コドン129Met/Valを持つものもvCJDプリオンに感染した。コドン129Val/Valを持つヒト化ノックインマウスは感受性がなかった。 |
| 37 | 2006/09/07 | 60422 | 日本ビーシージー製造 | 精製ツベルクリン | 全卵 | ニワトリの卵 | 日本 | 製造工程 | 有 | 無 | 無 | 鳥インフルエンザ | Emerg Infect Dis 2005; 11: 1515-1521 | 高病原性A型トリインフルエンザ(H5N1)のアウトブレイクはアジア9カ国の家禽に広がり、2004年1月から2005年4月までにベトナム等で52名以上が死亡した。トリとヒトから分離したH5N1の遺伝子解析を行ったところ、地理的分布が重ならない2つの異なったクレードを示した。全てのウイルス遺伝子はトリインフルエンザ起源であり、ヒトインフルエンザウイルスとの再配列はなかった。調べられたヒトH5N1単離体は全て単一のクレードに属し、アダマンチン薬には抵抗性があるが、ノイラミニダーゼ阻害薬には感受性があった。 |
| | | | | | | | | | | | | 鳥インフルエンザ | Avian Diseases 2005; 49: 436-441 | 2004年12月に発生した山口県の養鶏場のニワトリの高病原性トリインフルエンザ感染について、疫学的、病理学的、免疫組織化学的研究を行った。処分前の致死率は34640羽のうち43.3%であった。死んだトリは臨床症状は示さなかった。組織学的には肝細胞、脾臓の夾組織および濾胞、ならびに脳幹、大脳、小脳のグリア小結節などで壊死が見られた。免疫組織化学的にはインフルエンザウイルス抗原は肝臓、脾臓、心臓などで見られたが、肺や気管では稀であった。ウイルスの呼吸器からの排泄は消化管からの排泄ほど優位ではないことが示された。 |
| | | | | | | | | | | | | 鳥インフルエンザ | Nature 2006; 440: 741-742 | トリインフルエンザH5N1ウイルス感染による飼いネコの死亡報告がアジアとヨーロッパで増加している。ネコはウイルスの疫学に考えられていた以上に大きな役割を果たしているかもしれない。ネコが感染し、高病原性ウイルスを家禽やヒトや他の種に拡げる危険性を最小限にするために、国や関係機関は新たな注意を払う必要がある。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|------------|-------|----------|------------------------|-------------|-----------|---------|------|----|----|--------|----------|--------------------------------------|---|
| | | | | | | | | | | | | 鳥インフルエンザ | Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043 | タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。ウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニンとノイラミニダーゼ遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。 |
| 38 | 2006/09/07 | 60423 | ファイザー | ダルテバリンナトリウム | ダルテバリンナトリウム | ブタの腸 | 米国 | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 39 | 2006/09/07 | 60424 | あすか製薬 | 日局胎盤性性腺刺激ホルモン | 胎盤性性腺刺激ホルモン | ヒト尿 | 中国、ブラジル | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | 鳥インフルエンザ | N Eng J Med 2005; 353: 1374-1385 | 2005年5月10日から12日にハノイで開かれたヒトインフルエンザA/H5に対する症例管理と研究に関するWHO会議で一部発表されたものを含む、ヒトにおけるトリインフルエンザの特徴、予防、管理をまとめた総説である。発生率、伝播、臨床的特徴、病原論、症例検出および管理、予防の項目別に述べている。 |
| 40 | 2006/09/08 | 60425 | 味の素 | バルナバリンナトリウム注射液 | バルナバリンナトリウム | 健康なブタの腸粘膜 | 中国 | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 41 | 2006/09/08 | 60426 | 日本シェーリング | インターフェロンベータ-1b(遺伝子組換え) | 人血清アルブミン | 人血液 | アメリカ | 添加物 | 有 | 無 | 無 | 鳥インフルエンザ | Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043 | タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。ウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニンとノイラミニダーゼ遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。 |
| 42 | 2006/09/12 | 60427 | 日本シェーリング | レビバリンナトリウム | レビバリンナトリウム | ブタ小腸粘膜 | 中華人民共和国 | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|------------|-------|------------|---|--------------------------|----------|------------------|------|----|----|--------|-----------------|-----------------------------------|--|
| 43 | 2006/09/13 | 60428 | 東和薬品 | 塩化マンガン・硫酸亜鉛配合剤 | コンドロイチン硫酸ナトリウム | 魚類の軟骨抽出物 | アメリカ | 添加物 | 有 | 無 | 無 | 異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Br Med J 2006; 332: 1186-1188 | 1996年から1999年に、手術時に20-29歳であった患者から得られた虫垂および扁桃12674検体のうち、病原体プリオンに陽性染色であった3例(虫垂)について、プリオン蛋白の遺伝子型分析を行った。3検体中2例で分析が可能であり、両者ともプリオン蛋白遺伝子(PRNP)コドン129のValがホモ接合体であった。今まで、vCJD患者は、Met/Valのヘテロである医原性の1例を除いて全て、PRNPのコドン129がMetのホモ接合体であり、Valホモ接合体がvCJDに対し感受性があることが初めて示された。 |
| 44 | 2006/9/15 | 60397 | 日本メジフィジックス | テクネチウム大凝集人血清アルブミン(99mTc) | テクネチウム大凝集人血清アルブミン(99mTc) | 人血清アルブミン | 日本 | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 45 | 2006/09/19 | 60418 | 化学及血清療法研究所 | 乾燥人血液凝固第IX因子複合体 乾燥濃縮人血液凝固第IX因子 乾燥濃縮人アンチトロンビンIII | ヘパリンナトリウム | ブタ小腸粘膜 | 中国、フランス、アメリカ、カナダ | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 46 | 2006/09/19 | 60429 | 化学及血清療法研究所 | 乾燥人血液凝固第IX因子複合体 乾燥濃縮人血液凝固第IX因子 | 血液凝固第IX因子 | ヒト血液 | 日本 | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | 肝炎 | J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097 | 非特異的PCRを行った後、染色体由来配列を除去することにより、非A-E肝炎患者の血清から、外来DNA断片が得られた。これらの内の一つをNV-Fと名づけたが、部分的オープンリーディングフレームを含み、非A-E肝炎患者69例中17例(24.6%)に検出された。NV-F陽性患者65例中49例(75.4%)の血清中に抗NV-F抗体が検出された。また免疫蛍光分析により、抗原は患者の肝細胞に存在することが明らかとなった。NV-Fはヒト肝炎に関連する新規の1本鎖DNA断片である。 |
| | | | | | | | | | | | | ウイルス感染 | 第80回 日本感染症学会総会・学術講演会 | 日本におけるヒトボカウイルス(HBoV)検出状況を調査した。2002年10月～2003年9月、2005年1月～7月の2シーズンに、小児下気道感染症患者318例から採取した鼻咽頭スワブより抽出したDNAをPCRし、塩基配列を決定した。318例中18例(5.7%)でHBoVが検出され、検出された患者の年齢は7ヶ月から3歳で、検出月は1月から5月に集中していた。HBoVは様々な呼吸器感染症の原因ウイルスになっていると推定された。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|------------|-------|------------|--|---------|-------|----------|----------------|----|----|--------|----------|---|--|
| | | | | | | | | | | | | ウイルス感染 | カナダ Public Health Agency of Canada 2006年5月26日 | カナダ公衆衛生局は最近4例のカナダ人旅行者でチクンゲンヤ感染が原因と思われる疾患を確認した。これらの患者はレユニオン島などへ旅行し、2月から3月の初めに発症した。ヨーロッパでも帰国者による輸入例が報告されている。インド洋南西諸島で2005年3月から2006年4月22日までの間に公式に報告されたチクンゲンヤ感染例は3877例であるが、実際には255000例に達すると思われる。インドでは2005年12月以来、チクンゲンヤウイルスのアウトブレイクが報告され、2006年4月20日現在、153324例に達する。 |
| 47 | 2006/09/19 | 60437 | 化学及血清療法研究所 | 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 破傷風トキソイド | ハートエキス | クジラ心臓 | 捕鯨国:日本 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 48 | 2006/09/19 | 60438 | 化学及血清療法研究所 | 乾燥はぶウマ抗毒素 | はぶ毒 | ハブ毒素 | 日本 | 原材料 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 49 | 2006/09/19 | 60439 | 化学及血清療法研究所 | 乾燥まむしウマ抗毒素 | まむし毒 | マムシ毒素 | 日本 | 原材料 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 50 | 2006/09/19 | 60440 | 化学及血清療法研究所 | ①乾燥日本脳炎ワクチン ②乾燥弱毒生麻しんワクチン ③乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン ④乾燥弱毒生風しんワクチン ⑤乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン | 乳糖 | ウシ乳 | ニュージーランド | ①、③～⑤添加物、②製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 51 | 2006/09/19 | 60441 | 化学及血清療法研究所 | 乾燥日本脳炎ワクチン 日本脳炎ワクチン | 脳 | マウス脳 | 日本 | 製造工程 | 有 | 無 | 無 | 鳥インフルエンザ | Arch Virol 2006 Published online Feb 26, 2006 | 2004年初頭、日本で発生した高病原性トリインフルエンザで死亡したニワトリから単離されたA/chicken/Yamaguchi/7/04(H5N1)ウイルスを、ニワトリ、ウズラ、セキセイインコ、コガモ、マウス、ミニブタに経鼻で接種し、実験的に感染させることにより病原性を評価した。このウイルスは調べられた全てのトリで高病原性を示し、ニワトリは接種後4日以内に6例全てで死亡し、ウイルスは呼吸器、肝臓、腎臓、大腸、脳から検出されたが、血液からは検出されなかった。マウスは感染に感受性はあるが、致死率は低かった。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|------------|-------|------------|---|---------|----------|------------------|------|----|----|--------|---------|----|----|
| 52 | 2006/09/19 | 60442 | 化学及血清療法研究所 | ウイルス病治療血清 | 血清 | ウサギ血液 | | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 53 | 2006/09/19 | 60443 | 化学及血清療法研究所 | 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド ウイルス病治療血清 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン | 血清 | ウマ血液 | ニュージーランド | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 54 | 2006/09/19 | 60444 | 化学及血清療法研究所 | インフルエンザHAワクチン インフルエンザワクチン | 発育鶏卵 | ニワトリ発育鶏卵 | 日本 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 55 | 2006/09/19 | 60445 | 化学及血清療法研究所 | 乾燥はぶウマ抗毒素 乾燥まむしウマ抗毒素 乾燥ガスエソ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥ボツリヌスウマ抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン | ペプシン | ブタ胃 | 米国 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 56 | 2006/09/19 | 60446 | 化学及血清療法研究所 | ウイルス病治療血清 | 肝臓 | モルモット肝臓 | | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 57 | 2006/09/19 | 60447 | 化学及血清療法研究所 | ウイルス病治療血清 | 血液 | モルモット血液 | | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 58 | 2006/09/19 | 60448 | 化学及血清療法研究所 | 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン | カザミノ酸 | ウシ乳 | オーストラリア、ニュージーランド | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|------------|-------|------------|---|---------|------|-------------|------|----|----|--------|---------|----|----|
| 59 | 2006/09/19 | 60449 | 化学及血清療法研究所 | 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド コレラワクチン 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン 破傷風トキソイド | スキムミルク | ウシ乳 | アメリカ | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 60 | 2006/09/19 | 60450 | 化学及血清療法研究所 | 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ワイル病治療血清 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 破傷風トキソイド | ポリペプトン | ウシ乳 | 中国、ニュージーランド | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 61 | 2006/09/19 | 60451 | 化学及血清療法研究所 | 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 破傷風トキソイド | 肝臓 | ウシ肝臓 | オーストラリア | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 62 | 2006/09/19 | 60452 | 化学及血清療法研究所 | 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド コレラワクチン 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 破傷風トキソイド | 肉 | ウシ肉 | オーストラリア | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|------------|-------|------------------|----------------------|----------------------|--------------|----------|------|----|----|--------|---------|----|----|
| 63 | 2006/09/19 | 60453 | 化学及血清療法研究所 | コレラワクチン | ハートインフュージョンアガー | ウシ乳・心臓 | | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 64 | 2006/09/19 | 60454 | 化学及血清療法研究所 | コレラワクチン | ハートインフュージョンブイオン | ウシ乳・心臓 | | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 65 | 2006/09/19 | 60455 | 化学及血清療法研究所 | 乾燥はぶウマ抗毒素 | はぶウマ抗毒素 | ウマ血液 | 日本 | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 66 | 2006/09/19 | 60456 | 化学及血清療法研究所 | 乾燥まむしウマ抗毒素 | まむしウマ抗毒素 | ウマ血液 | 日本 | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 67 | 2006/09/20 | 60459 | フジモト・ダイアグノスティックス | ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚抽出液 | ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚抽出液 | 日本白色種家兎皮膚抽出液 | 中国 | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 68 | 2006/09/21 | 60460 | 持田製薬 | インターフェロン ベータ | インターフェロン ベータ | ヒト線維芽細胞 | 日本 | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 69 | 2006/09/21 | 60461 | 持田製薬 | インターフェロン ベータ | カルボキシペプチダーゼ | ブタ膵臓 | 米国 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 70 | 2006/09/21 | 60462 | 持田製薬 | インターフェロン ベータ | トリプシン | ブタ膵臓 | | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 71 | 2006/09/21 | 60463 | 持田製薬 | インターフェロン ベータ | ウシ血清 | ウシ血液 | ニュージーランド | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 72 | 2006/09/21 | 60464 | 持田製薬 | インターフェロン ベータ | インスリン | ウシ膵臓 | | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|------------|-------|------|--|----------|------|----------|----------------|----|----|--------|----------|--|---|
| 73 | 2006/09/21 | 60465 | 持田製薬 | ①日局硫酸フラジオマイシン、結晶トリプシン ②インターフェロン ベータ | トリプシン | ウシ臓臓 | ニュージーランド | ①有効成分 ②製造工程 | 有 | 無 | 無 | BSE | OIE http://www.oie.int/Messages/060309SUE.htm | スウェーデンでBSEが初めて報告された。Vastmanland郡の1994年3月生まれの内食用交雑種雌牛で、乳熱後に後足の問題で処分された。迅速検査で陽性後すぐに、同じ群れのウシは制限下に置かれた。診断は国立獣医学研究所と英国のOIE Reference研究所で行われた。危険動物の同定と餌に関する調査はEU法に準じて行われる。 |
| | | | | | | | | | | | | BSE | ProMED20060429-0030 | 2006年2月にクロアチアから、4月にエストニアから、各々、国内初となるBSE疑い例を発表したが、OIEは組織病理学的診断の結果、BSEは確認されなかったことを報告した。 |
| 74 | 2006/09/21 | 60466 | 持田製薬 | インターフェロン ベータ | 人血清アルブミン | ヒト血液 | 日本 | 添加物・製造工程 | 有 | 無 | 無 | 鳥インフルエンザ | CDC 2006年6月30日 | 種差を超えてヒトに感染するトリインフルエンザのうち、H5N1は重症例や死亡例を最も多く発生させている。アジアや、ヨーロッパ、近東、アフリカの一部で発生している家禽や野鳥におけるH5N1流行に関連して、このウイルスに感染したヒトの半数以上が死亡した。H5N1のヒト-ヒト感染は報告はあるが、限定されており、非効率的で、持続していない。しかしながら、H5N1ウイルスが、ヒトからヒトへ簡単に拡がるように変化しうることを科学者らは懸念している。H5N1ウイルスに対するワクチンは現在開発中である。 |
| 75 | 2006/09/21 | 60476 | 持田製薬 | ウロキナーゼ | ウロキナーゼ | ヒト尿 | 中国 | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | ウイルス感染 | 第80回 日本感染症学会総会・学術講演会(2006年4月20-21日) | 日本におけるヒトボカウイルス(HBoV)検出状況を調査した。2002年10月～2003年9月、2005年1月～7月の2シーズンに、小児下気道感染症患者318例から採取した鼻咽頭スワブより抽出したDNAをPCRし、塩基配列を決定した。318例中18例(5.7%)でHBoVが検出され、検出された患者の年齢は7ヶ月から3歳で、検出月は1月から5月に集中していた。HBoVは様々な呼吸器感染症の原因ウイルスになっていると推定された。 |
| | | | | | | | | | | | | 鳥インフルエンザ | Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043 | タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。ウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニンとノイラミニダーゼ遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|------------|-------|-------------|-------------------------|------------------------|-----------------------|----------|------|----|----|--------|-----------------|---|--|
| | | | | | | | | | | | | 鳥インフルエンザ | CDC 2006年6月30日 | 種差を超えてヒトに感染するトリインフルエンザのうち、H5N1は重症例や死亡例を最も多く発生させている。アジアや、ヨーロッパ、近東、アフリカの一部で発生している家禽や野鳥におけるH5N1流行に関連して、このウイルスに感染したヒトの半数以上が死亡した。H5N1のヒト-ヒト感染は報告はあるが、限定されており、非効率的で、持続していない。しかしながら、H5N1ウイルスが、ヒトからヒトへ簡単に拡がるように変化しうることを科学者らは懸念している。H5N1ウイルスに対するワクチンは現在開発中である。 |
| 76 | 2006/09/22 | 60467 | ジェンザイム・ジャパン | アガルシダーゼ ベータ(遺伝子組換え) | アガルシダーゼ ベータ(遺伝子組換え) | 遺伝子組換えチャイニーズハムスター卵巣細胞 | | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 77 | 2006/09/22 | 60468 | ジェンザイム・ジャパン | アガルシダーゼ ベータ(遺伝子組換え) | ドナー子ウシ血清 | ドナー子ウシ血液 | ニュージーランド | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 78 | 2006/09/22 | 60469 | 日本製薬 | 乾燥ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン | ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリンG | 人血液 | 日本 | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | 伝染性紅斑 | Transfusion 2005; 45: 1811-1815 | 6ヶ月間にわたり血液疾患患者に投与された合計2123の血液製剤について、ハルボウイルスB19DNAの有無をPCRにより調べた。その結果、21製剤(1%)が陽性であった。試験期間中114例の患者のうち14例がB19DNA陽性の血液成分を投与されたが、急性B19感染症を呈した患者はいなかった。 |
| | | | | | | | | | | | | 異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | GDR Weekly 2006; 16(6) | 英国で、献血の20ヶ月後にvCJDを発症したドナーからの血液(赤血球)を輸血された患者が、8年後にvCJDと診断された。これは英国において輸血伝播によると思われるvCJD感染の3症例目である。 |
| | | | | | | | | | | | | E型肝炎 | 日本赤十字社 http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/01/dl/s0126-10e05.pdf | 北海道赤十字血液センターで献血者のHEV保有状況を調べた。平成16年11月1日から平成17年10月31日にブタ、シカ等の生肉、生レバーの喫食歴のある献血者は298,790人中802人(0.28%)で、その血液検体からHEV-RNAが1例検出された。平成17年11月1日から12月31日に生肉、レバー等の喫食歴のある献血者は49,361人中13,835人(28.0%)で、HEV-RNAが5例検出された。平成17年1月1日から12月31日の試行的HEV20プールの検査での陽性率は約1万分の1であった。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|------------|-------|------|-------|---------|------|-----|------|----|----|--------|-----------------|---|---|
| | | | | | | | | | | | | 異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | The Guardian 2006年5月2日 http://www.guardian.co.uk/frontpage/story/0,,1765531,00.html | 英国は、1990年代に輸出された英国製の血液製剤からのvCJD感染の危険性について、輸出先の14か国に連絡を行った。輸血を介したvCJD感染は英国では3例報告されており、未発症の感染者からの供血により引き起こされる災害の「第二の波」が懸念される。最も危険性の高いブラジルとトルコや、ブルネイ、アラブ首長国連邦、インド、ヨルダン、オマーン、シンガポールに予防措置をとるよう勧告した。 |
| | | | | | | | | | | | | 鳥インフルエンザ | Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043 | タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。ウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニンとノイラミニダーゼ遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。 |
| 79 | 2006/09/22 | 60470 | 日本製薬 | トロンピン | トロンピン | 人血液 | 日本 | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | 伝染性紅斑 | Transfusion 2005; 45: 1811-1815 | 60469に同じ |
| | | | | | | | | | | | | 異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | CDR Weekly 2006; 16(6) | 60469に同じ |
| | | | | | | | | | | | | E型肝炎 | 日本赤十字社 http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/01/dl/s0126-10e05.pdf | 60469に同じ |
| | | | | | | | | | | | | 異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | The Guardian 2006年5月2日 http://www.guardian.co.uk/frontpage/story/0,,1765531,00.html | 60469に同じ |
| | | | | | | | | | | | | 鳥インフルエンザ | Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043 | 60469に同じ |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|------------|-------|------|------------------|------------|------|-----|------|----|----|--------|-----------------|---|----------|
| 80 | 2006/09/22 | 60471 | 日本製薬 | 乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ | 人アンチトロンビンⅢ | 人血液 | 日本 | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | 伝染性紅斑 | Transfusion 2005; 45: 1811-1815 | 60469に同じ |
| | | | | | | | | | | | | 異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | CDR Weekly 2006; 16(6) | 60469に同じ |
| | | | | | | | | | | | | E型肝炎 | 日本赤十字社 http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/01/dl/s0126-10e05.pdf | 60469に同じ |
| | | | | | | | | | | | | 異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | The Guardian 2006年5月2日 http://www.guardian.co.uk/frontpage/story/0,,1765531,00.html | 60469に同じ |
| | | | | | | | | | | | | 鳥インフルエンザ | Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043 | 60469に同じ |
| 81 | 2006/09/22 | 60472 | 日本製薬 | 人血清アルブミン加熱人血漿たん白 | 人血清アルブミン | 人血液 | 日本 | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | 伝染性紅斑 | Transfusion 2005; 45: 1811-1815 | 60469に同じ |
| | | | | | | | | | | | | 異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | CDR Weekly 2006; 16(6) | 60469に同じ |
| | | | | | | | | | | | | E型肝炎 | 日本赤十字社 http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/01/dl/s0126-10e05.pdf | 60469に同じ |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|------------|-------|--------|--------|----------|------|-----|------|----|----|--------|-----------------|--|---|
| | | | | | | | | | | | | 異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | The Guardian 2006年5月2日 http://www.guardian.co.uk/frontpage/story/0,,1765531,00.html | 60469に同じ |
| | | | | | | | | | | | | 鳥インフルエンザ | Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043 | 60469に同じ |
| 82 | 2006/09/22 | 60473 | わかもと製薬 | ウロキナーゼ | 人血清アルブミン | 人血液 | 日本 | 添加物 | 有 | 有 | 無 | デング熱 | ProMED20060422-0090 | ベネズエラで疫学週1週間のデング熱患者は722人で、うち42人(5.8%)がDHFであった。累計デング熱患者は11099人で、2005年同時期の患者数(8024人)と比較して28.9%上昇している。また、香港で、健康予防センター(Centre for Health Protection)は25才の女性のデング患者を確認した。これにより年間累計患者数は9人になった。全例とも輸入例である。 |
| | | | | | | | | | | | | ウイルス感染 | CDR Weekly 2006; 16(21) | 2006年5月15日現在、HPA Special Pathogens Reference Unitにより確定された2006年の英国におけるチクングンヤ症例は48例である。血清学的にチクングンヤと診断された症例数は、1999年から2004年は年に平均6例、2005年は19例であった。患者の大多数はアジアかアフリカへの旅行歴があったが、2006年の患者のうち5例は旅行歴がなかった。インド洋諸島でのアウトブレイクは減少傾向であるが、非免疫旅行者にとって感染の危険はしばらく続くであろう。 |
| | | | | | | | | | | | | ウイルス感染 | カナダ Public Health Agency of Canada 2006年5月26日 | カナダ公衆衛生局は最近4例のカナダ人旅行者でチクングンヤ感染が原因と思われる疾患を確認した。これらの患者はレユニオン島などへ旅行し、2月から3月の初めに発症した。ヨーロッパでも帰国者による輸入例が報告されている。インド洋南西諸島で2005年3月から2006年4月22日までの間に公式に報告されたチクングンヤ感染例は3877例であるが、実際には255000例に達すると思われる。インドでは2005年12月以来、チクングンヤウイルスのアウトブレイクが報告され、2006年4月20日現在、153324例に達する。 |